

第 420 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2023 年 12 月 8 日 (金) 17 時~18 時

場 所: 創立 30 年記念棟 3 階大会議室(常念岳)

演 者: 今井 健一 氏 (日本大学歯学部 感染症免疫学)

歯周疾患発症における口腔ウイルスの存在意義 ーEBV が骨代謝に影響を及ぼす可能性ー

口腔がヘルペスウイルスに加え、SARS-CoV-2 にとっても増殖の場かつリザーバーとなっていること、さらに食中毒の原因であるノロウイルスも唾液腺で増殖、唾液で伝播することが昨年の **Nature** に報告されるなど、近年、口腔におけるウイルスの存在が注目されています。私達は、これまでの「宿主ー寄生体相互作用」に加え、「細菌ーウイルスの相互作用」の解明が、病気の理解とそれに伴う新規の予防・治療法の開発につながると考え、これまでインフルエンザ、AIDS 及び COVID-19 等の研究を行って参りました。

近年では、病因が解明されたとは言いきれない歯周炎の発症にもウイルスが関与しているのでは？との仮説のもと研究を進めております。その中で、歯肉 B 細胞に感染した EBV が破骨細胞分化を誘導し骨吸収を促進する可能性を見出しました。細菌と宿主の相互関係に加えウイルスも含めた視点から歯周疾患を論じることが、これまで細菌感染のみでは説明が難しかった病因の解明につながるかもしれません。

本セミナーでは、主に歯周疾患発症とウイルスとの関連について、私見を交えながら紹介させていただきます。

(参照:「口腔におけるウイルス存在の意義ーウイルス学的視点は歯周治療を変えうるのかー。歯界展望 2023 年 11 月号 p884-912」)

プロフィール

1997 年朝日大学歯学部卒業。2001 年明海大学大学院歯学研究科修了。名古屋市立大学大学院医学研究科 分子遺伝 PD、細胞分子生物学助教、2010 年日本大学歯学部専任講師、2012 年准教授を経て、2016 年より教授。

2020 年 3 月~日本歯科医学会連合、及び口腔衛生学会 新型コロナウイルス感染症対策チーム委員、日本歯科医師会 「新たな感染症を踏まえた歯科診療の指針」策定タスクチーム委員